

ある日バスの中で

三年 阿部 明美（昭和五四年度）

春休みの時、ちょうど買い物の帰りのバスの中での出来事でした。

私はバスターミナルから乗りました。一つ目の停留所で二人の老人が乗りました。手には荷物を持っていました。あいにく席は一つもあいてなく、ちょうど私の後に立っていました。その姿は、とても苦しそうでした。

私は席をゆずろうかとても迷っていました。「ゆずりたい。でも、はずかしい。」という気持ち私の心の中にありました。回りを見てもだれ一人立とうともしません。二つ目の停留所がすぎても、だれ一人といって老人に席をゆずる人は、現れません。私もよくバスに乗る方で、いく度か回りの人たちに助けってもらう事があります。私はどうしようか迷いました。ゆずりたいのがやまやまですが、しかし、はずかしさがさきにきてしまうのです。

次の停留所が見えてきた時、私は勇気を出して、「おばあさんどうぞ。」と言って席をゆずりました。おばあさんは、ほっとしたらしく、笑顔で私に「ありがとうございました。助かりました。」と言っていいねいにおじぎをしてくれたの

です。その時は、私は、何でもつと早く席をゆずってやらなかったのだろうか。なぜ、はずかしさが先に立ってしまったのか……。

言いようなない悔しさが、私の心に込み上げて来るのを感じました。私は悔しい心のままバスを降りようとした時、おばあさんが「本当にありがとうございました。」とやさしく言ってくれました。私は、悔しかったけど、笑顔でかるく礼をしておりました。その後もこの苦く、悔しい後悔が続きました。

このバスの出来事は、私にとって苦しく、苦い味の思い出になってしまったようです。

今、思い出すと、あの時、おばあさんの、二言が、あの場の私にとって、とっても重く感じられたのでしよう。そして、あのはずかしさは、だれ一人ゆずらずにいた中に、「おばあさん、どうぞ。」という勇気が出せないためだったのでしょうか。やはり今思い出すと、苦しく、苦い味のくやしさがこみ上げてきます。そして、また、一人として席をゆずろうとしなかった人達をみなさんはどう感じますか。私は、あれが本当の大人の取る態度なのかと、とてもなさけなく感じました。もし、みなさんが、バスの中で私のような立場になった時は、老人の立場になって考えて下さい。